

小川原湖の水環境

資料-5

■小川原湖の現状

- ・小川原湖は、汽水・淡水の動植物が生育する多様な生態系を有している。
- ・しじみ、シラウオ、ワカサギなどの内水面漁業は地域の主要な産業となっており、「小川原湖産大和しじみ」は、H29年12月に地理的表示(GI)登録、シラウオは水揚量が全国1位。ワカサギ、しじみも全国有数の水揚げである。



小川原湖全景



小川原湖産大和しじみ



しらうお



わかさぎ



天然うなぎ

水産資源が豊富なことから、「宝湖」と呼ばれ、シラウオの水揚量は全国1位を誇っている。全国的にも貴重な天然ウナギの産地でもある。



小川原湖湖水浴場(東北町)

浜台湖水浴場(東北町)
年間利用者数 約1万2千人

浜台湖水浴場
(東北町浜台)

小川原湖
湖水浴場
(東北町旭)

小川原湖湖水浴場(東北町)
年間利用者数 約6万6千人

小川原湖畔
湖水浴場
(三沢市)
年間利用者数 約3万8千人



カヌー・カヤック等湖水面利用も盛ん



湖水まつり花火大会(東北町)

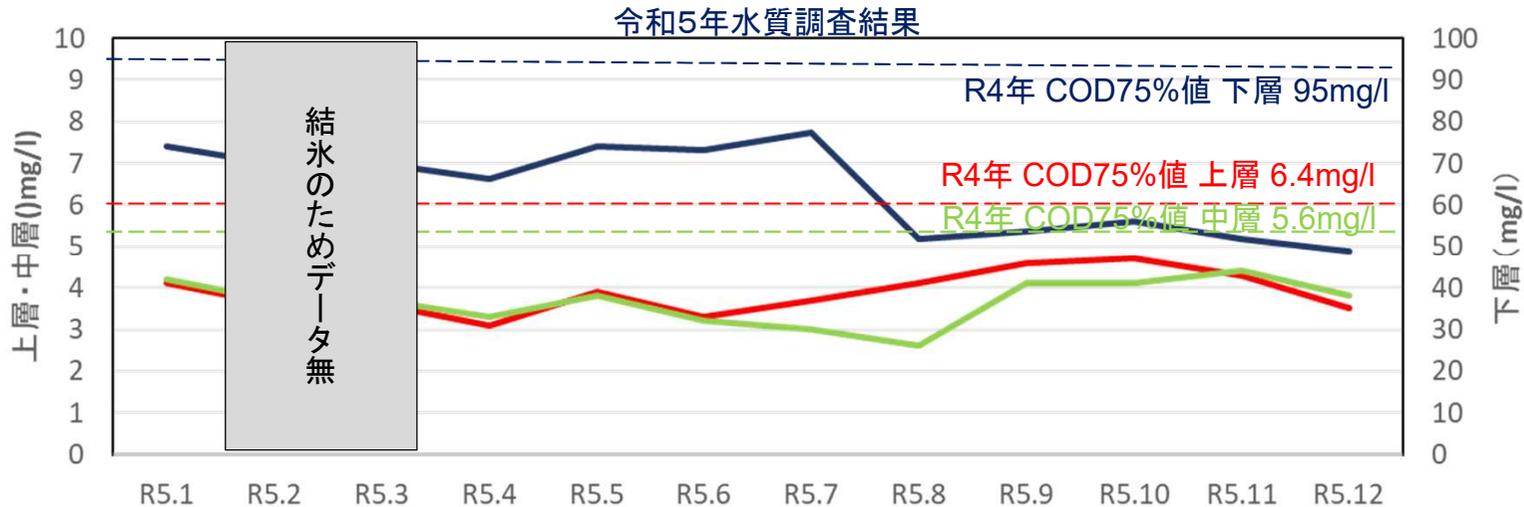
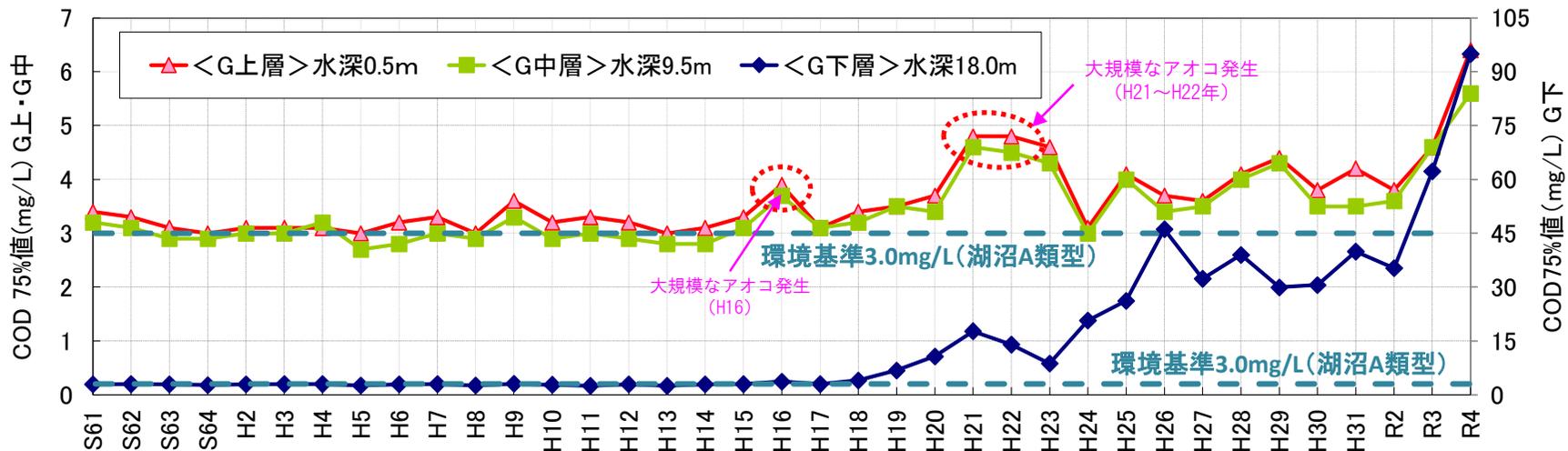


小川原湖畔湖水浴場(三沢市)

※年間利用者数 H31年度 河川空間利用実態調査

小川原湖の水環境 ~水質の状況~

- 小川原湖の水質（上・中層）は、平成10年代後半から悪化傾向にあったが、平成21年を境にCODが緩やかに減少傾向にあり、平成10年代後半の状況とは異なる様相を呈している。
- 一方、下層は、平成26年以降COD30~45mg/L程度と高い状態で推移、令和4年にはCOD90mg/L程度と環境基準値の約30倍もの高い値となっている。
- 小川原湖のCODは、上層・中層・下層の全てで環境基準を超過し近年も悪い状況にある。
- 令和5年のCODは、各層とも令和4年より悪い値となっていない。

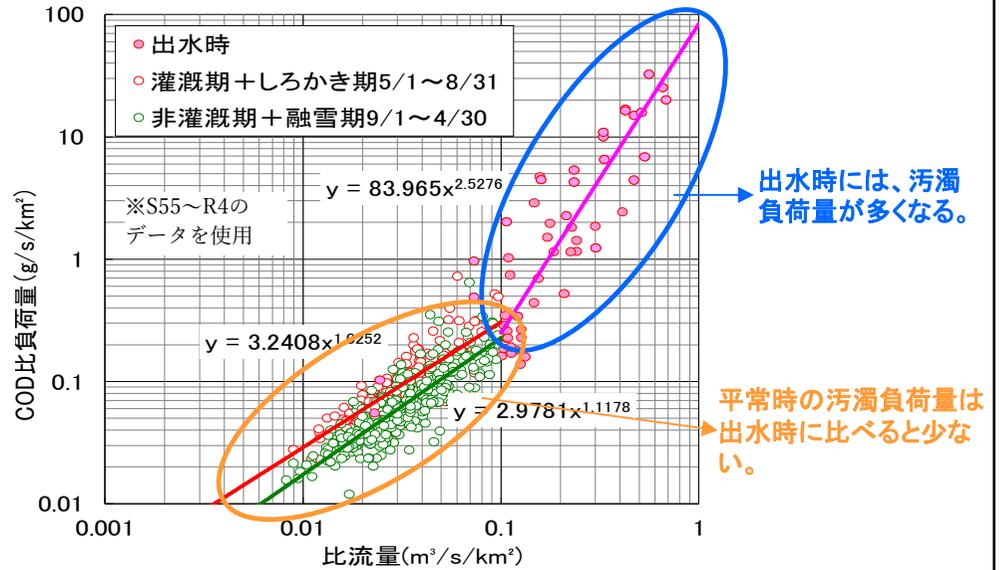
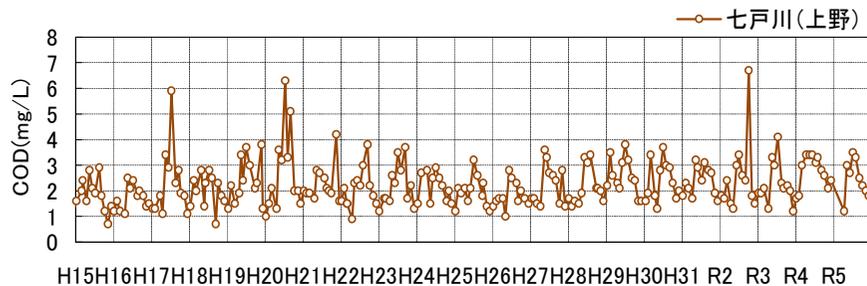


小川原湖の水環境

～流入負荷（出水の影響）～

○水質調査の実施と流入負荷量の算定

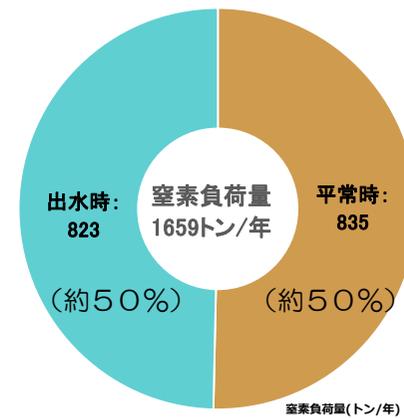
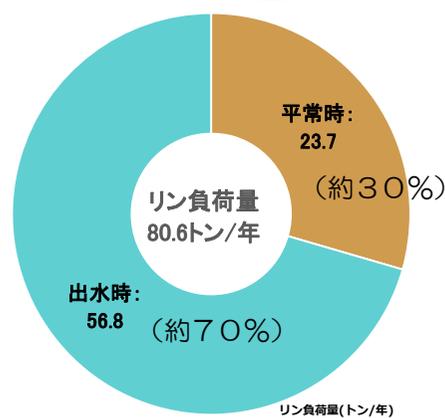
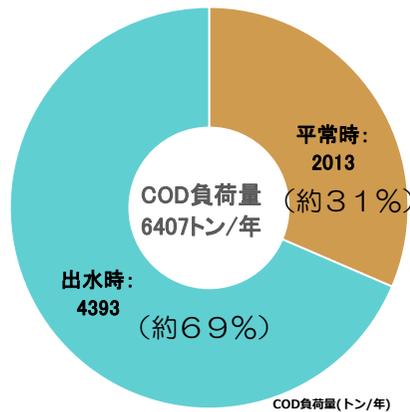
高瀬川河川事務所では、定期水質調査（月1回）と出水時水質調査を実施しており、小川原湖や流入河川（七戸川、砂土路川、土場川、赤川、姉沼川、中津川）の水質状況の把握・データ蓄積しています。出水時には、平常時に比べ汚濁負荷量が多くなるのが分かっています。



○流入負荷量の内訳

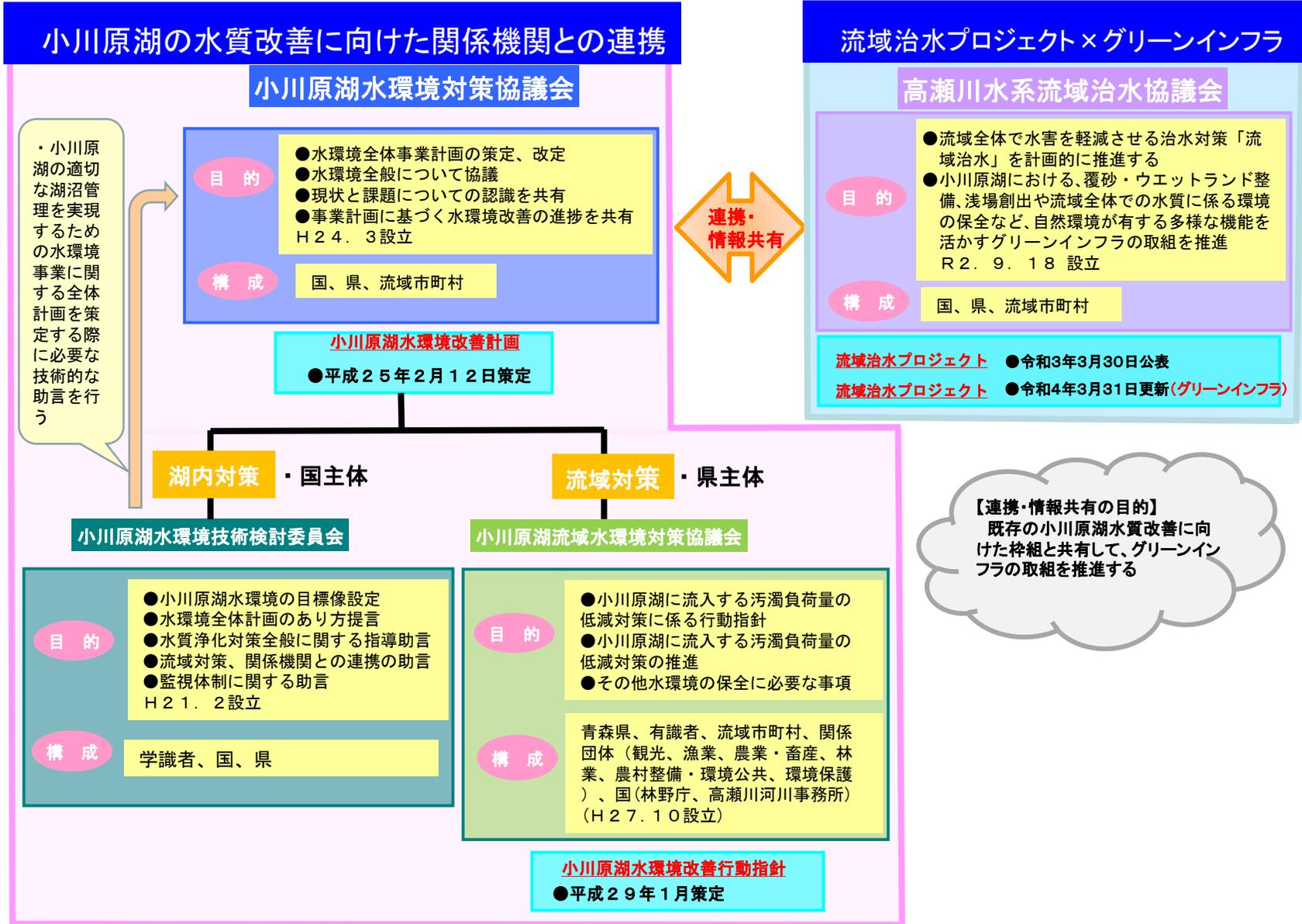
小川原湖へ流入する負荷量の平常時・出水時の内訳を整理すると、出水時の流入負荷量が5～7割を占めています。これらを減らすために、出水時に汚濁物質を一時的に貯留する対策や流出を遅らせる対策など、少しでも流入負荷が減るような工夫を沿川流域の皆様が一帯となり取組んでいくことが必要です。

【小川原湖への流入負荷量の種別内訳】



小川原湖の水環境 ～取組体制～

・国土交通省と青森県は、湖内対策及び流域対策を連携して取り組んでいます。また、沿川市町村の皆様とともに流域治水プロジェクトにおいてグリーンインフラの取組みも推進しています。



小川原湖の水環境

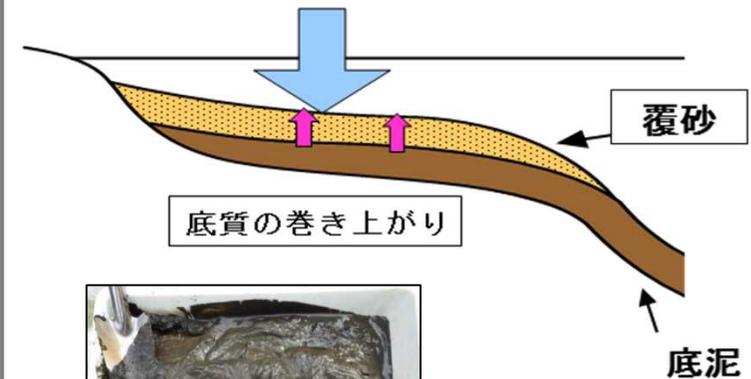
～高瀬川河川事務所の取組み 覆砂工事～

- ・平成30年より試験施工を実施してきており、今年度から本格的に工事に着手しました。
- ・令和5年度の当初予算に加え、補正予算を確保し、効果発現にむけて工事を継続していきます。



◆覆砂

底泥表面を砂で覆うことにより、底泥からの溶出負荷の低減、底質の改善を図る。



覆砂予定区底泥の状況



砂の積込状況(試験施工時)



砂の投入状況(試験施工時)

